

めぐみイエス・キリスト教会

2019年11月17日(日) 第Ⅲ主日礼拝
週報「通算第481号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年11月17日 第三主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌428「キリストにはかえられません」p. 690

【交読文】 No.45 詩篇第146篇 p. 915

【賛美Ⅱ】 新聖歌252「安けさは川のごとく」 p. 390

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.9 「ひとつの心」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章19節～23節(新約p. 204下段)

【祈 禱】

【説 教】 《あなたがたに平安があるように》 鈴木竜実牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1.ルカによる同一平行記事から

※ルカの福音書24章33節～40節「週の始めの日の夕方」(新約p.155)

24:33 すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、

24:34 「本当に主はよみがえって、シモンにお姿を現わされた。」と言っていた。

24:35 彼らも、道であったいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。

24:36 これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。

24:37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。

24:38 すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。

24:39 私の手や私の足を見なさい。まさしく私です。私にさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。私は持っています。」

24:40 イエスはこう言われて、その手と足を彼らにお示しになった。[欠]

●ポイント2. 主イエス様が十字架にかかる前の弟子への言葉とは？

※ヨハネの福音書16章31節後～33節「最後の晩餐の最後」(新約p.196)

16:31 「あなたがたは今、信じているのですか。

16:32 見なさい。あなたがたが散らされて、それぞれ自分の家に帰り、私をひとり残す時が来ます。いや、すでに来ています。しかし、私はひとりではありません。父が私と一緒におられるからです。

16:33 私がこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたが私にあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。私はすでに世に勝ったのです。」

※イザヤ書28章16節「失望することはない(ローマ・I ペテ)(旧約p.1070)

28:16 だから、神である主は、こう仰せられる。「見よ。私はシオンに一つの石を礎として据える。これは、試みを経た石、堅く据えられた礎の、尊いかしら石。これを信じる者は、あわてることがない。」

●ポイント3.『あなたがだれかの罪を赦すなら～残ります』とは？

※マタイの福音書18章21節～22節「弟子たちへの主の言葉」(新約p.33)

18:21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」

18:22 イエスは言われた。「七度まで、などとは私は言いません。七度を七十倍するまでと言います。」

※ヨハネの福音書8章31節～36節「真理は自由にする」(新約p.176下段)

◎先週のメッセージの概要【父のもとに上るとは？】

《イエス様は、アラム語でマグダラのマリヤを「ミリアム」と呼ばれました。するとマリヤは、イエス様であることが分かって、「ラボニ(先生)」と答えたのです。

私たちの神様は、私たちの名前を知っておられます。そしてマリヤと呼ばれたように、私たちの名前を呼んで下さるのです。また私たちは、マリヤのようにイエス様の声を知っています。マリヤやヨハネのように実際にこの耳で聞いたことはなくても、聖霊様によってその声を聞くことが出来るからです。

さて、イエス様は、マグダラのマリヤに「私にすがりついてはいけません。」と言われました。これには三通りの意味があると言えます。

一つは、十一弟子の所に行って、イエス様の復活の喜びを報告する為です。主が復活された喜びを、自分一人のものとするのではなく、この「喜びの知らせ」をいち早く、悲しんでいる弟子たちに知らせなさい、と言うことです。

そして次は、目に見えるイエス様に固執することなく、聖霊との関わりの方にです。これまでは、十一使徒も、そして付き添って来た女たちも、イエス様とは直に接して来ましたが、その関わりが関係が変わると言うことです。

すなわち、イエス様が天に昇られた後、約束された聖霊が降って来られます。主イエス様の霊であられる聖霊は、イエス様が、約束なされたように、「見よ。私は世の終わりまで、いつも、あなたがたと共に」いて下さるのです。

そしてもう一つの理由は、主イエス様が言われた「私はまだ父のもとに上っていないからです。」と言う言葉から導き出されるものです。それは、まことの大祭司として、天にある本物の幕屋の至聖所にはいるから、と言うことです。

天にも幕屋と契約の箱があるのです。その本物の契約の箱の上に、ご自身の血潮を振りかけることによって、「永遠の大祭司」となれるのです。

「私の兄弟たちの所に行って、彼らに『私は、私の父またあなたがたの父、私の神またあなたがたの神のもとに上る。』と告げなさい。」と言われました。

この言葉は預言です。十一弟子は、やがてオリーブ山において「イエス様の昇天」の場面を、直にその目で見ることになります。その約束なのです。

私たちは、この主の言葉によって本当に「神の子ども」とされたのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は11月24日です。通常通り、午前礼拝と午後礼拝を行ないます。また次回「聖書の学びと祈り会」は、11月20日(水)に行ないます。